

3.3.3 臨海実習

担当：岩本 哲人

実施時期：令和元年8月1日（木）～8月2日（金）

場所：神戸大学内海域環境教育研究センター（淡路市岩屋）、成ヶ島（洲本市由良）

対象生徒：2年次 10名 1年次 5名 計15名

講師：羽生田 岳昭先生（神戸大学 理学部生物学科 助教）

1. 研究開発の経緯と目的

本事業は今回で8回目である。神戸大学内海域環境教育研究センターにて臨海実習を行い、淡路島成ヶ島にて自然観察を行った。この事業を実施した目的・ねらいは専門的に深く追及する探究心と分野横断的に知識を活用する創造性を併せ持った探究型人材の育成である。

2. 仮説

本事業により、育むことができる力としての仮説は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
仮説	○	○	○	○	○	○	○

3. 研究内容・方法

仮説を検証するために行った研究内容は以下の通りである。8/1(木)プランクトン採集をし、神戸大学マリンサイトにて、プランクトンの観察、ウニの発生実験、海藻採集と標本作成を行った。

8/2(金)午前は1日目の実習報告会を行い、午後に成ヶ島にて干潟の生きものの観察を行った。研修教材としての位置づけは、生物基礎の「生態系での物質の循環」及び生物の「海洋の食物網」、「生物の系統」である。特に成ヶ島では、干潟に生息するハクセンシオマネキの生態を観察することができた。また自然海岸や塩沼湖の様子も観察した。

4. 検証

成果を検証するためにアンケートを実施した。各自の力が向上したと思うと回答した割合は以下の通りである。

	課題 設定力	企画 協働力	論理 考察力	自己 学習力	表現理解力		ICT 活用力
					発表	質問	
検証	87%	93%	80%	87%	80%	60%	47%

今回の事業では猛暑の中であったが、生徒たちは良く活動した。特に臨海実習ではウニの発生実験と海藻標本の作製に意欲的に取り組んでいた。ご協力下さった神戸大学の先生方のお陰である。2日目の成果発表会では自主的に制作したスライドで前日の成果をきちんと発表することができた。今後の改善点は、プログラムの精選と充実である。特に8月という猛暑の中での開催なので、余裕のあるプログラムが必要であろうと思う。